

優秀賞（愛媛朝日テレビ賞）

『差別に負けない強い心』

四国中央市立土居中学校 3年 曾我部ゆりあ

差別に負けない強い心と表現することがありますが、どこから差別に負けていて、どこから強い心というのか、ずっと疑問に思っています。

中学三年生になって最初の同和問題の授業では、

「代わりの子はいません」

という市内で実際に起こった出来事の資料を学んでいます。

その授業で意見を発表する時間があり、ある一人の子が、

「差別に負けてしまってはだめ。」

というような意見を出しました。私は確かに差別に負けないことって大事だよなと思いながらあまり深く考えていませんでした。しかし、先生がその意見に対し、

「差別に負けないってどういうことなのか。」と疑問をぶつけてきました。私は差別に対して落ちこまないとか、あまり深く考えられていませんでした。クラス全体が近くの人と話し合った後、先生は

「差別に負けないの一番の答えは死なないこと。」

と言いました。その言葉は私の胸に深く刺さりました。その時はなぜそこまで印象に残ったのか分かりませんでした。今、改めて考えると、まず死なないという言葉のインパクトが強かったのだと思います。今までやってきた学習で差別によって死んだというものは出てこなかったもので衝撃が大きかったです。

でも、よく考えるといじめによって、亡くなってしまう人がいるように、差別によって傷つき死を選んでしまう人がいると思いました。私は、言い方は違ってもしじめと差別はほとんど同じ意味だと思います。どちらも相手を人だと思って接していないからです。差別やいじめに負けない心とは、自分自身が幸せになる権利を捨てないことだと私は思います。

しかし、私にはまだ疑問が残りました。差別に負けないに付け足して、差別に負けない強い心と表現することがあるけれど、その強い心とは一体なんだろうかと思いました。

二年生の道德の授業である動画を見ました。その動画は、運動会の競技である大縄跳びで、とある理由で上手く跳べない子と一緒に跳ぶか跳ばないか、本人そっちのけでクラスみんなの意見が割れ話し

合っている場面がありました。話し合いの途中で、クラスのある子が

「本人にも意見を聞かないといけない。」

と言いました。その子は、ただ一言、

「跳びたい。」

と言いました。それで一緒に跳ぶことになり、本番の結果では最下位でしたが、みんな泣いて喜んでいました。私はその一連の流れを見て、強い心とは個人の意見を尊重し合い、一緒に成長するための一歩を踏み出せる心なのではと考えました。

強いには色々な意味があります。例えば、力が強いというと少し怖い印象を持つこともあります。でも、ここでいう強い心は、とても穏やかで優しく、周りも勇気付けてくれるとてもすごいものだと思います。

私が思う差別に負けない強い心とは、幸せになる権利を手放すことなく、互いに尊重し前へと一歩ずつ進むことができる、とても勇気付けられる心だと思います。私はこの心を持ちたいです。まずは小さなことからやっていきます。例えば、相手の意見をほめてみたり、困っている人がいれば助けたりしたいと思います。私も自分の意見がほめられたら嬉しいし、助けられるとありがたいという感謝の気持ち

○無断転載禁止○ ※本作品を広報誌等に掲載したい場合は、下記に御連絡ください。

松山地方法務局人権擁護課 TEL (089) 932-0888 (代表)

ちでいっぱいになります。みんなこの心は持っていると思います。その心を表に出すことをためらっているだけだと思います。私からその心を大きくしていき、周りにもその輪をつないでいきたいのです。